

2023年3月17日

赤い羽根 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金
「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成決定にあたって

はじめに

今後発生が予測されている南海トラフ地震や首都直下地震のような大地震、複数の都道府県にまたがる広範囲の風水害等の大規模災害が発生した際には、被災者支援を行うボランティア活動を推進するための多様な連携が求められます。そのため、平時から発災時の対応能力を高め、迅速なボランティア活動の体制づくりにつなげていけるよう、様々な立場の人たちの力をあわせ、備える必要があります。

そこで、中央共同募金会では2022年度より、赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）」への寄付を財源として、災害時のボランティア活動にかかる資機材等の整備やそれらを活用するためのネットワーク構築を行うことにより、各都道府県・指定都市域における効果的かつ持続可能な支援活動を面的に広げることを目的として「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」を実施しています。

また、本助成事業を通じて、都道府県・指定都市域ごとに保有している資機材の情報を全国的に共有する仕組みをつくり、効果的に資機材提供を行うためのネットワーク構築を目指すこととしています。

2月21日、「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」の助成先を決める審査委員会を開催し、4県・1政令指定都市の5団体の事業に対して、合計2,498万円の助成を決定しました。これにより、2年間の累計で9県2政令都市においてネットワークづくりの支援を行うこととなり、被災地における災害ボランティア・NPO活動の環境整備と体制づくりが一層推進されることが期待できます。

1 応募状況と助成決定状況

2023年1月31日まで応募受付した助成公募では、5件 合計2,500万円の応募があり、2月21日の審査委員会において、応募要項の趣旨および要項に記載した「審査にあたって重視する点」等に照らして審査を行った結果、4県・1政令指定都市の5団体の事業に対して、合計2,498万円の助成を決定しました。

2 選考にあたっての考え方（審査委員長コメント）

今回で2回目となる助成の審査では、昨年同様応募要項に審査基準として示した以下の項目を重点に、審査委員会において慎重な審査を行いました。

- ・具体的な活動内容や経費精算が読み取れる内容となっているか

- ・目標や問題意識が明確になっているか
- ・プロジェクトを実施するための手法が明確で適切であるか
- ・災害発生時に被災地の災害 VC へ迅速な資機材提供の体制が整えられるか
- ・さまざまな団体や組織との連携や協働により行われる事業であるか
- ・助成事業終了後の事業継続を行うための実施体制が構築されているか

今回の応募では、資機材を保管するための倉庫等の設置や、資機材を管理するシステム構築を行うとともに、ネットワークづくりのための人材育成や研修等を行う事業での応募が多数ありました。

審査の過程では、倉庫等の設置場所や資機材の搬送など、資機材を提供する体制を継続していく見込みがどの程度たっているのかという観点を中心として議論を行い、いずれの応募も、平時からのシステムの運用や費用負担について、市区社協とともに地域の団体や企業等との調整を行っている点などが高く評価されました。

今回助成が決定された団体が所在する地域は、青森県、群馬県、横浜市、奈良県、鳥取県であり、前回の助成団体とあわせて北海道と北陸をのぞく地域に広がりました。

本助成によって整備された資機材は、各助成決定団体においてリスト化され、全国的な共有が図られることとなっています。この資機材リストは、来年度にホームページにて公開する予定であり、発災時には被災地支援の大きな力となることを期待しています。

最後に、全国の個人・企業の皆さまよりボラサポに多くのご寄付をいただきましたことに深く感謝しますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者から託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

災害ボランティア・NPO 活動サポート募金
審査委員会 委員長 菅 磨志保